

探求を経て実現する新境地への期待

音楽評論家 柴田克彦

庄司紗矢香は進化を止めない。7年ぶりとなるジャンルカ・カシオーリとの日本ツアーで披露するのは、「ガット弦とモーツァルト時代のクラシック弓を使用した」古典派の音楽。カシオーリもフォルテピアノを弾く。

「For the Music」に徹しながら、細心の彫琢とパッションを併せ持つ訴求力抜群の演奏を聴かせてきた庄司のこと。むろんこれは「古楽の流儀を取り入れてみた」といった安易な挑戦ではなく、「モーツァルト時代の音楽を表情豊かに、いま生まれるものとして伝えること」(庄司)を目指したがゆえの表現手段なのだ。そのベースには約20年前のケルン音大在学中に古楽専門の室内楽教師から学んだ演奏法がある。そして在宅時間が長かったコロナ禍の2年間、C.P.E.バッハやL.モーツァルト等々の文献をじっくりと研究し、同時代の音楽に相応しい演奏スタイルに確信を得た彼女は、まず今年5月にモーツァルトのソナタ集を録音(DGより今秋リリース予定)。次いで今回、初のライブの実現に至った。

東京・横浜公演の演目は、録音した3曲を含むモーツァルトのソナタとベートーヴェンの人気作が主体。モーツァルトはチャミングかつ深みのある名品揃いで聴きどころは多い、モダン仕様でカシオーリと録音&実演しているベートーヴェンは、本スタイルにおける変化を明瞭に示す演奏となる。庄司が著作に示唆を受けたC.P.E.バッハの作品の挿入も意味深い。また、各公演の1曲目に置かれたK.304とK.378は、モーツァルトの同ジャンルの中でも知られた作品なので導入に最適だし、共に基調が長調でありながら第1楽章の主部が短調で書かれたモーツァルトのK.379と「クワイツェル」をはじめ、陰影が際立つ作品が多く並んでいる点も目を引く。

庄司は、これまでのカシオーリとの共演で、「全音符がエスプレッシーヴォな(表情豊かな)」音楽を奏でてきた。新境地となる今回のスタイルで、いかなる深化を示すのか? そのステージに熱視線が注がれる。



庄司 紗矢香(ヴァイオリン)
Sayaka Shoji, Violin

「絶大なスタミナと何事にもひるまない精神、希有な音楽家」とグラモフォン誌に評された庄司紗矢香は、ユーリ・テミルカーノフ、ズービン・メータ、ジャンドレ・ノセダ、マリス・ヤンソンス、パーヴォ・ヤルヴィなどの指揮者や、サンクトペテルブルク・フィルハーモニー交響楽団、マリンスキー劇場管弦楽団、NHK交響楽団、サンタ・チェチーリア国立アカデミー管弦楽団といった世界を代表するオーケストラと共演を重ねている。最近では、ヴァシリー・ペトレンコ指揮ロイヤル・フィルハーモニック管弦楽団とBBCプロムスデビュー、ブロッサム音楽祭でクリープランド管弦楽団とのデビュー、ヴィンセント・オラフソンと日本リサイタルツアー、ヴラディミール・アシュケナージ指揮フィルハーモニア管弦楽団との英国ツアー、エサ=ベッカ・サロネン指揮フィルハーモニア管と日本ツアー、ユーリ・テミルカーノフ指揮サンクトペテルブルク・フィルハーモニー交響楽団などと共演。今後は、ジャンルカ・カシオーリとの日本リサイタルツアーや、ダンサーの勅使河原三郎とフィルモニ・ド・ノリでの共演が予定されている。また、サントウ=マティアス・ロウヴァリ指揮フィルハーモニア管とイタリアと英国ツアーにも参加する。ジャンルカ・カシオーリとベートーヴェンのピアノとヴァイオリンのソナタ全集を録音しており、2022年秋に新しいアルバムがリリースされる。1999年にバガニーニ国際ヴァイオリン・コンクールで最年少および日本人として初めて優勝。2010年芸術選奨新人賞、2016年毎日芸術賞を受賞。使用楽器は、上野製菓株式会社より貸与された1729年製ストラディヴァリウス「レカミエ(Recamier)」である。



ジャンルカ・カシオーリ(フォルテピアノ)
Gianluca Cascioli, Fortepiano

1979年イタリアのトリノ生まれ。ピアノをイモラのピアノ・アカデミーでフランコ・スカラ(カルロ・ゼッキの教え子)に師事。94年ルチアーノ・ベリオ、エリオット・カーター、マウリツィオ・ポリーニ、チャールズ・ローゼンが審査員を務めたウンベルト・ミケーリ国際ピアノ・コンクールで優勝。以来ヨーロッパ、北米、日本の主要な音楽都市に演奏の場を広げている。ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、ボストン交響楽団、カメラータ・ザルツブルグ、シカゴ交響楽団、ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団、フィルハーモニア管弦楽団、ロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団、ミラノ・スカラ座フィルハーモニー管弦楽団、ニューヨーク・フィルハーモニック、ウィーン交響楽団、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団など著名なオーケストラと共演。またクラウディオ・アバド、ウラディミール・アシュケナージ、ジョン・ティンパニ、ワレリー・ゲルグエフ、ダニエル・ハーディング、リカルド・ムーティ、ロリン・マゼール、ズービン・メータ、ユーリ・テミルカーノフなど名だたる指揮者との共演は数えきれない。また、ムスティスラフ・ロストロポーヴィチ、ユーリ・バシメット、マキシム・ヴェンゲローフ、フランク・ペーター・ツィマーマン、アルバンベルク弦楽四重奏団、クレメンス・ハーゲン、ザビーネ・マイヤーなども共演。カシオーリは、作曲をトリノのジュゼッペ・ヴェルディ音楽院でアレクサンドロ・ロイおよびアルベルト・コッラに師事。彼の作品は、いくつかの作曲コンクールで優勝し、重要な会場で演奏されている。

(2022年その他の日本公演全国スケジュール)

- 12/1(木) 青山音楽記念館/パロックザール (開) 青山音楽記念館/パロックザール 075-393-0011
- 12/3(土) 北九州市立響ホール (開) 北九州音楽祭事務局 093-663-6567
- 12/4(日) 札幌コンサートホール Kitara (開) Kitaraチケットセンター 011-520-1234
- 12/6(火) 愛知県芸術劇場コンサートホール (開) クラシック名古屋 052-678-5310
- 12/8(木) 住友生命いづみホール (開) いづみホールチケットセンター 06-6944-1188
- 12/10(土) 三原市芸術文化センター ポポロ (開) 三原市芸術文化センター 0848-81-0886



今回のコンサートやレコーディングに至る、庄司による「18世紀の音楽についての考察」を是非お読みください。

特別割引 チケットのお知らせ

ジャパン・アーツびおオンラインチケット及びジャパン・アーツびおコールセンターで受付。横浜公演は神奈川芸術協会でも受付。

- ◎シニア・チケット:65歳以上の方はSV7,700・AV6,800にてお求めいただけます。
- ◎学生席¥3,000(A席相当):9/24(土)一般発売より受付を開始いたします。社会人を除く公演当日25歳までの学生対象です。当日は学生証をご提示の上、ご入場ください。(学生証がない場合、一般価格との差額を頂戴いたします。)
- ◎車椅子の方は、本人と付き添いの方1名までが割引になります。(東京はジャパン・アーツびおコールセンター、横浜は神奈川芸術協会のみで受付。)
- ◎<横浜限定>子供文化芸術支援事業対象公演 18歳以下無料(限定202席)対象:公演当日、小学校1年生~18歳以下。申込方法等詳細は神奈川芸術協会ホームページの当公演ページにて、9月以降公開いたします。

(次のことからあらかじめ承知の上、チケットをお求めください。)①やむを得ない事情により、曲目・指揮等が変更になる場合がございます。②公演中止を除き、お買い求めいただきましたチケットのキャンセル・変更等はできません。③いかなる場合もチケットの再発行はできません。紛失等には十分ご注意ください。④演奏中は入場できません。⑤未就学児の同伴はご遠慮ください。また、就学児以上のお子様もご入場には1人1枚チケットが必要です。⑥全席指定です。指定のお席でご座ってください。⑦場内での写真撮影・録音・録音・携帯電話等の使用は固くお断りいたします。⑧ネットオークションなどによるチケットの転売は、トラブルの原因となりますのでお断りいたします。⑨他のお客様の迷惑となる場合、主催者の判断でご遠慮いただく場合がございます。⑩公演実施の可否は新型コロナウイルス感染状況を見極めて慎重に判断させていただきます。

